

## 混合歯列期叢生患者への臨床対応

○阿多美幸、石倉万里衣、奥猛志

医療法人 おく小児矯正歯科

### 【緒言】

混合歯列期に矯正治療を開始する患者の中で、叢生の占める割合は多い。叢生の治療計画は、セファロX線分析、歯列模型分析等から立案している。しかし、抜歯・非抜歯のいずれを選択するか、拡大する場合はどの装置を用いるか等、治療方針に苦慮するケースが多い。一方、当院では乳歯列期反対咬合へのフローチャートを作成し、臨床対応の系統化を図っている。今回、混合歯列期叢生への症例への臨床対応からフローチャート作成を試みたので報告する。

### 【症例】

当院での混合歯列期叢生に対する臨床対応について、典型的な5症例を提示する。

<症例1>可撤式拡大装置による拡大のみ行った症例

患児：7歳2か月、女児

装置：上下拡大plate

動的治療期間：4年8か月

<症例2>固定式拡大装置による拡大のみ行った症例

患児：9歳3か月、男児

装置：上顎QH、下顎BH

動的治療期間：3年8ヶ月

<症例3>可撤式拡大装置による拡大後マルチブラケット（以下MB）を装着した症例

患児：8歳7か月、女児

装置：上下拡大plate、GMD、MB

動的治療期間：4年3か月

<症例4>可撤式ならびに固定式拡大装置による拡大後MBを装着した症例

患児：10歳2か月、女児

装置：上顎QH、下顎拡大Plate、MB

動的治療期間：2年8か月

<症例5>永久歯抜歯後MBを装着した症例

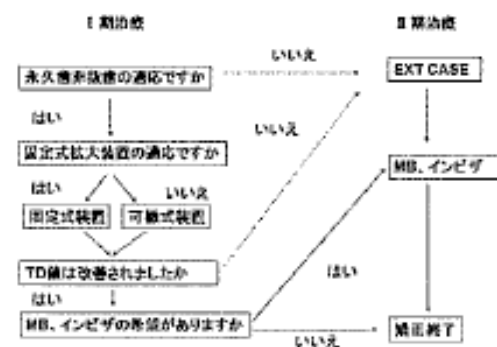
患児：11歳9か月、女児

装置：上下左右第1小臼歯抜歯、MB

動的治療期間：2年3か月

### 【考察】

これらの症例対応から、下記のような混合歯列期叢生対応のフローチャート案を作成した。



混合歯列期叢生患者に対して当院では、可能であれば非抜歯による矯正治療を選択している。しかし、矯正開始時期やディスクレパンスの程度などによっては永久歯の抜歯を選択せざるを得ない症例もある。

今後、当院の他の症例についても分析・再評価を行い、抜歯・非抜歯基準、拡大の時期や方法についてさらに検討し、フローチャートの改善を図りたい。

### 【文献】

町田幸雄、関崎和夫：乳歯列期から目指す永久歯列期正常咬合獲得への道、株式会社ヒョーロンパブリッシャーズ、東京、2015。